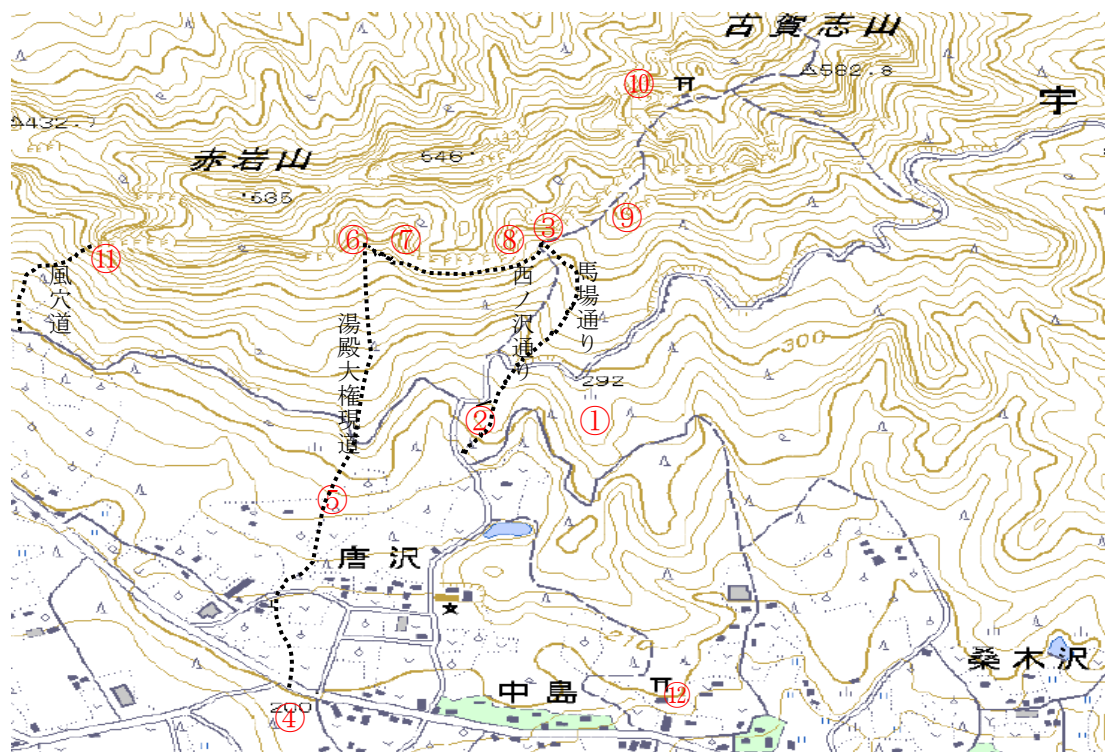


(空写 田野辺勝美氏)



- ①伊釜山②瀧大権現石鳥居③瀧大権現（現瀧神社）④権現山⑤湯殿大権現石鳥居⑥大日窟⑦荒沢瀧⑧三社弁天⑨聖観音⑩御嶽山⑪風雷神社⑫日吉神社

一背戸の御山

「背戸」とは裏山を指す。往古の人たちは古賀志山に畏敬の念を抱き神仏を祀った。その名残が色濃く残っている。

○古賀志山大神

こがしさんおおかみ



古賀志山最大の岩壁を

「古賀志山大神」という。

往古の人たちは、この古賀志山主稜線から張り出した巨大岩壁に「古賀志山大神」を祀った。ピークに石祠がある。

「古賀志山」は、古賀志山主稜線及び前面に張出す前衛岩壁南面から麓に下る山麓一帯の総称である。

赤川ダムのある東の森林公園一帯は古賀志町ではなく福岡村細野である。従って、森林公園から入山する東稜コース、

中尾根コース、北尾根コースの区域は、「細野山」と称し、古賀志山とは一線を画している。

○御嶽山

古賀志山主稜線の中央のピーク御嶽山を地元では単に「頂上」と呼ぶ。ガイドブックに「御岳山」の字を充ててあるのは間違いである。幕末期の弘化三年（一八四六）、木曾の御嶽山を勧請した経緯がある。頂上直下の岩窟にある「アルマヤ堂」跡はその名残である。昭和二十年代まで、この御堂には天狗の像が奉納されていた。その名の由来は木曾御嶽山の「ピーク」「アルマヤ天」を摸したものだ。



明治時代の中頃、長岡藩出身の米山治平が、御嶽信仰を中興した。岩屋にある弘法大師の石像を奉納したのも同氏である。岩屋には「宇都宮三寶講」の人たちが同氏の顕彰碑を建てた。岩窟内に霊水がある。尚、アルマヤ堂は昭和二十年代に崩壊し、天狗像は修理に出したまま不明。

○ 猪落の対面岩 ししおとし

「猪落」は古賀志山主稜線から南に張り出した細尾根で小字名でもある。圧巻は「対面岩」の奇岩である。尚、この岩に「モアイ像」なる名称が付けられ、急いで正式名の「地名板」を設置した。



岩下に「猪穴」ししあながある。夏場には「ヒカリゴケ」が見られる。この絶壁自体を御神仏と見做し対面岩に畏敬の念を抱いた。

往古の人たちは、この猪落の岩壁の付け根から「古賀志山大神」の大岩壁の付け根をトラバースして観音岩から瀧大権現（男滝）に至り、更に中当山の岩下を抜けて女滝、三杜弁天をめぐり、「背中当山」の岩下をトラバースして荒沢の滝下の荒沢不動をお参りし、大日窟に至る道を「岩下道」或は「岩下参道」と呼んでいた。

○ 観音岩の正観音



奉納は享保十年（一七二五）、長岡傳左衛門によって奉納された。瀧神社のお祭りの拝所の一つである。この南斜面一帯は長岡家から寄進されたので「寄進山」の名が残る。

こがしさん 古賀志山から西側に派生する尾根の先端部が観音岩である。
この名の由来は、岩下の小さな岩窟に二基の不動明王に護衛された聖観音（正観音）しょうかんのんがあるからである。

二 窟

古賀志山の中腹には大きな岩窟が三つある。いずれの場所にも豊富な水がある。往古の人たちが神仏を祀ったのは、こうした水の存在と大きな岩窟である。

○ 瀧大権現（現瀧神社）

おたき
男滝の懸かる岩窟に瀧大権現の社が祀られている。日光山瀧尾大権現を勧請したのが天仁元年（一一〇八）である。



瀧大権現が、現在の岩窟に落ち着くまでには、遷宮を繰り返した経緯がある。最初の勧請された場所は、現在の岩窟の中ではなく、中山の南斜面、七大杉の聳える北斜面であった。「是迄ハ大杉ノ北ノ方ニアリ」の記述が残る。

慶長年中、奥平家昌の御代、この七大杉の内、六本が伐採された記述がある。一本の大杉だけが残された。瀧に上る石段

も元禄七年（一六九四）に整備された。寛永七年（一七二〇）には、宗源宣旨「正一位瀧権現」の神位を受けた。享保十一年（一七二六）には瀧大権現の石鳥居が奉納され、寛延四年（一七五二）には「馬場通り」の参道整備が行われ、道普請の石碑が建てられた。



「安永九年庚子四月廿二日修覆シ東ノ岩窟ニ宮ヲ迁ス」の記述がある。大杉の北にあった「社」は、岩窟に遷宮された。これが遷宮の始まりである。その後、岩窟と大杉北の窪地との往還を繰り返す。現在地に落ち着くまでには、度重なる遷宮に負担を感じた氏子から文化年中には訴訟が起こった。文政七年（一八二四）の『瀧大権現神事祭禮記』が残っている。嘗ては旧暦一月十四、十五の両日行われ、中嶋・唐沢の氏子が、本社その他に十三カ所の拜所に供え物を供えた後、神事を行った。その伝統は今も残り、一月の第二日曜に行われている。

○大日窟

この岩窟を地元では、「大日さま」と呼ぶ。



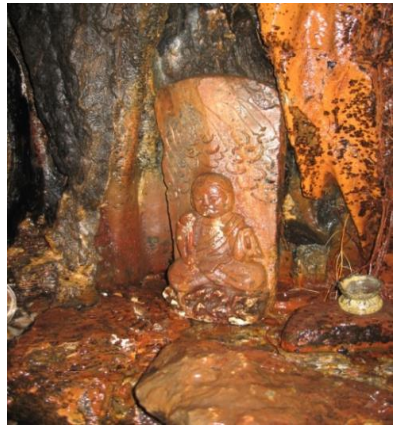
元禄四年（一六九一）岩崎村の百姓が狩の途中、この岩窟内を覗き込み、「大日如来岩屋ニ現レ玉フハ後シロ姿ナリ」と感得した。

『古檀神社考』

この百姓は、元禄十五年（一七〇二）石碑を奉納した。

この地に湯殿山が勧請されたのは享保六年（一七二一）、同年、麓の弘蔵院宥清法印が出羽国羽黒山寂光寺より、「常火切火免許」を授与されたことに起因する。依って、それ以降、湯殿大権現と称された。

出羽国湯殿山の崇拝の対象は大日如来である。出羽湯殿山の「荒沢寺」の「常火堂」には不動明王と地藏菩薩がある。大日窟にもこの二つは不可欠であった。



大日窟に地藏菩薩と不動明王があるのはこのためである。

大日窟への起点に当る権現山には天明八年（一七八八）奉納の「湯殿山大権現道」の道標がある。



表参道には、天明四年（一七八四）に奉納した明神鳥居がある。因みに古賀志村の伝説では、権現山にあった山桜の大木を「孝子桜」としていた。創作民話は城山西小の枝垂れ桜にすり替えてしまった。



○三社弁天

背中当山の東側の付け根に大きな岩窟があり、三社弁天が祀られている。弁天三社は、当初から三社ではない。



上の写真は取り壊し前の三社弁天（中央が弁財天の社、左が風神雷神の社、右は天狗宮の社）
享保十年（一七二五）、この岩窟に弁財天が祀られた。安永九年（一七八〇）及び文政八年（二八二五）に再建された記述が残る。次いで安永四年（二七七五）、「雷神風神」の御宮が建てられた。最後に女瀧の岩窟にあった天狗宮がここに移され祀られた。



天狗宮の石像



(写真左 天狗宮)

平成廿七年、倒壊寸前の老朽化した弁天三社の社は取り壊され、一つの社に統合された。内部に弁財天、風雷神、天狗宮の御神体が納められている。
この建物の製作は黒羽刑務所の方々の作品である。